

令和4年度 大阪市立住吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和4年度 大阪市立住吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	94	67	51	48	5.5	12.4	5.3
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	99	53.5	57.7	54.7	58.2	58.2	11.5	4.1	10.4	4.8	6.3
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1
2 年	学校	100	60.1	49.3	46.9	50.5	53.3	6.8	3.7	14.3	8.3	7.3
	大阪市	—	58.7	44.6	48.1	52.6	55.2	8.6	5.9	15.8	8.3	6.4
	大阪府	—	59.6	44.4	49.0	53.1	56.1	8.5	6.3	16.1	8.7	6.5
1 年	学校	100	60.3	55.6	56.2	54.4	58.7	11.9	4.9	8.8	5.8	6.3
	大阪市	—	57.8	51.8	54.2	55.0	58.3	12.1	4.9	7.6	5.3	5.1
	大阪府	—	58.6	—	55.0	—	59.1	12.5	—	8.0	—	5.3

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	88	117.4	123.3	165.6	107.7
10月19日	大阪市	—	102.8	105.4	152.4	96.6

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	97	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	32.04	25.74	44.48	51.06	84.08		7.96	189.54	20.40	41.60
	大阪市	28.80	26.10	42.66	51.66	77.74	425.87	8.08	196.13	19.98	40.80
	全 国	28.99	25.74	43.87	51.05	78.07	409.81	8.06	196.89	20.28	41.04
2 年 女 子	学校	23.21	21.67	43.51	45.60	56.11		8.84	152.74	13.00	47.86
	大阪市	23.08	21.91	45.40	46.34	51.72	321.08	9.07	166.28	12.26	47.00
	全 国	23.21	21.67	46.07	45.81	51.60	302.89	8.96	167.04	12.45	47.42

令和4年度 大阪市立住吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、正答率が上回るものはなかったが、マイナス1割～2割で推移しているが、「(2)情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」領域においてマイナス8.3割となっており、苦手分野が浮き彫りとなった。

＜数学＞ 全国と比較して、「図形」領域において、プラス3.2割となっており、他はマイナス0.6割～2.8割であった。

＜理科＞ 全国と比較して、「粒子」と「地球」を柱とする領域で正答率を上回った。「生命」を柱とする領域ではマイナス5.6割となった。

全教科ともに、無回答率の多さが大阪市、全国を上回るという結果であった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

平均点では大阪府を1.43割、大阪市を2割上回る結果を得ることができた。

＜課題＞

僅かながらではあるが、大阪府平均において、国語で0.3割、数学で1.3割下回りはしたが、理科では2.3割、社会でも2.3割、英語では4割上回る結果を得ることができた。数学においては、特に「図形」領域において、マイナス1割となっていることが課題であり、無回答率についても、大阪府平均を0.8割、大阪市平均においては1割上回る結果であった。無回答率の解消も今後の課題である。

○大阪市英語力調査(GTEC)

＜成果＞

【読むこと】【聞くこと】【書くこと】【話すこと】すべての項目で大阪市平均を上回った。ポイントごとに並べると14.6割△ 17.9割△ 13.2割△ 11.1割△ と11.1～17.9割上回る結果を得ることができた。

＜課題＞

今後も継続して、読む、聞く、書く、話すの4技能の定着を進めていきたい。

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

＜成果＞

平均正答率は大阪府と比較して、2年生は国語で0.5割、社会で4.9割上回る結果で、数学で2.1割、理科で2.6割、英語で2.8割下回る結果であった。また、1年生では大阪府と比較して、国語で1.7割、数学で1.2割上回り、英語で0.4割下回る結果で、大阪市との比較で社会が3.8割上回り、理科が0.6割下回る結果であった。

＜課題＞

2年生の数学、理科、英語において、基礎・基本となる学習内容の定着のための徹底した反復学習や、考える力を養うためのペアワーク、グループワークに取り組む必要がある結果となった。また、1年生の理科における考察力の構築や、英語における4技能の更なる向上が必要となる結果となった。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

＜成果＞

男女ともに大阪市、全国の体力合計点を超えている。ポイントをあげると、男子：大阪市0.8割△、全国0.56割△、女子：大阪市0.86割△、全国0.44割△という結果を得ることができた。

＜課題＞

すべての種目で大阪市平均、全国平均を上回ることをめざすとともに、男女ともに立ち幅跳びは、大阪市、全国平均を下回っていることが課題である。

【今後に向けて】

授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取組として、生徒が主体的に「学びに向かう」授業展開を実践しながら、基礎・基本となる学習の定着を進めていく。また、学習用タブレット等のICT機器を活用しての授業展開の充実を行い、更なる学力向上を進めていく。